OUTBACK紹介表.pdf 1 2022/10/26 21:26

OUTBACK アクターズスクール第２回演劇公演
「漂流アイランド」
2022.11.3（祝）14時開演（13時30分開場）
あかいくつ劇場

いよいよ第２回公演です。今年もお声がけ頂き、約半年間濃ゆいメンバーと濃ゆい時間を過ごし、今日を迎えられました。
いつの間にか会うことが当たり前になっていましたが、今日で一旦お別れです。
始まれば終わります。
演劇は儚い夢です。でもそんな儚さが好きです。
今日が終わったら、OUTBACK の皆は明日から何をするのでしょう。
明日のために、ここいる全ての皆様が今日を楽しんでくれたら幸いです。
本日はご来場頂きまして、誠にありがとうございます。

前原麻希／講師・俳優

今回は、旅の劇です。
実際の旅もワクワクしますが、創作の旅もまた愉しいものです。
スタートした半年前には、この作品が一体どこへ向かうのか、誰にも分かりませんでした。でも、メンバーから出てくる体験やアイデアを推進力に、徐々に進んでいきました。色んな所へ立ち寄り、悩んだり力を合わせたりして、ついに創作の旅は、思ってもいなかった場所に到着しました。そうやってこの世に二つとない作品が産まれて、本日を迎えることが出来ました。
《漂流アイランド号》、いよいよ出航です。ごゆっくりお愉しみ下さいませ。

加藤啓／講師・俳優

OUTBACK は、表現が健康的だと感じています。誰かにほめられたいとかではなく（多少はありますが）自分の内側にある表現を試しに出してみる、ということをみんながしています。ほかの人の表現を手伝ったり、発表をみて笑ったり、拍手をして讃えあうことも、健康的です。疲れたら休んだり、寝たりしています。
「みんなが不調」ということによって、安全で健康的な表現の場ができていて、そこがおもしろいと思っています。『漂流アイランド』お楽しみに。

オノマリコ／講師・劇作家

昨年は役者として参加したのですが、今年は音楽を担当します。
メンバーのエピソードから成る物語。昨年に引き続き、皆さんの魅力に心を動かされっぱなしです。
紫雲会横浜病院の患者さん達とはリモートでつながりながら作業し、劇中歌の歌詞を寄せていただきました。メロディは OUTBACK メンバーと一緒に考えました。
それぞれの人生から旅にまつわるピースが集まったら、聴く人の心にも不思議と重なり記憶を呼び起こす歌になりました。

西井夕紀子／講師・作曲家

昨年の春からスタートした OUTBACK アクターズスクール。今年も４月から第２期をスタートし、本公演を目指してワークショップを重ねてきました。今年は、新たなスクール生だけでなく、新たなスタッフも加わり、昨年とはまた違ったことに挑戦してきました。その挑戦とは、精神科病院に入院中の人たちとの交流です。
コロナ禍の精神科病院は、これまで以上に閉鎖的な状態にあります。そんな病院の中で家族や友人と交流できずにいる人たちとオンラインでつながり、劇の中に出てくる歌を一緒に作りました。歌のテーマは「旅」。旅は誰でも経験したことがあるはずです。旅について語ると、人はいろいろな思い出、感情が呼び起こされます。参加者一人一人が詩を書いて、みんなで読んで味わい、その後に一つの大きな詩を作りました。そして、その詩に OUTBACK のスクール生数名と作曲家の西井さんがメロディーをつけて劇中歌に仕立てました。
当初は、病院の人たちも舞台に立って一緒に歌ってほしいと思っていました。しかし、コロナ禍がまだ収まり切らない状況がそれを許してくれませんでした。なので、今回は映像での出演となっています。近い将来、入院中の人も本番の舞台に立ったり、私たちが病院の中に入って劇を上演したりと、自由な行き来が可能になることを願っています。
そんな新たな取り組みに挑んできたこの半年間、他にもいろいろありました。長野県での精神医療人権センターの設立記念イベントや、8月の KP 神奈川精神医療人権センターのシンポジウム、９月の家族会連合会の講演会に出演したりと、スクール生はあちらこちらで大活躍でした。
さまざまな経験を重ねた先に迎える本日の公演。この半年間の演劇の旅を通してみつけてきたものを、皆様にお見せできたらと思っています。
どうぞお楽しみください。

中村マミコ／ OUTBACK アクターズスクール校長

＜ゆゆ（１期）ガリバー島の召使＞
うつ病、パニック障害、摂食障害、睡眠障害などがあります。今年は持病の拒食症が酷く、体重も減ってめまい止めの薬が手放せず、練習が出来るのかとても不安でした。でも、スクールの皆さんが温かい言葉をかけてくださり、元気魂をもらいました。自分の体と相談しながら練習を重ねて、最後まで走り続けます！

＜ドニー（１期）パワハラを受ける会社員＞
うつ病を経験した会社員です。演劇はクリエイティブな気分転換。考えられることを考え抜いて、やれることはやりぬく。で、最後はみんなでウオーと叫びたいです。今回は劇中の小道具づくりでも頑張りました。

イラスト・さしくん

写真・佐藤光展

舞台監督：相良ゆみ
音響照明：富山雅之
制作協力：横井貴子

＜えっちゃんが本当に働いている喫茶店＞

喫茶ほっとは川崎市高津区溝の口にあり、こころの悩みや障がい、病気による生き辛さを体験した人たちが、自分らしい生き方を創り出すことを目指して集い、支え合いながら、働いたり語り合ったりしている場です。
この半年間のえっちゃんは、まさしく旅行記と言ってもいいくらい世界を広げてきたように見えます。OUTBACK のことで頭がいっぱいのえっちゃんの、とてつもなく真っ直ぐな姿を多くの人に見てもらえたらと思います。

喜納辰洋／喫茶ほっと店長

＜劇中に登場する精神科病院＞

当院は横浜市にある精神科の病院です。今回は OUTBACK の魅力あふれる舞台の一部を担わせていただき、患者様も今までにない経験ができ、喜んでいました！楽園は中には無いので、OUTBACK の皆さんの力も借りて外に飛び出すぞ！！

西浦淳一郎／紫雲会横浜病院作業療法士

今年 10 月、横浜出身のアントニオ猪木さんが亡くなりました。「たとえ貧しくとも心の貧乏人になるな」。猪木さんは祖父が残したこの言葉を大切にしながら、プロレスを「イカサマ」「八百長」と決めつける世間の貧しい心と闘い続けました。その姿は実にカッコよく、美しかった。時に暴走することもありましたが、そんな愚かさもひっくるめて、私にとって第二の父親のような存在でした。
精神疾患のある人たちも、社会にあふれる心の貧乏人たちの攻撃にさらされがちです。そして、ますます自信を無くし、孤立した心は潤いを失って、症状が悪化していきます。
OUTBACK アクターズスクールは、ただの演劇学校ではありません。心の貧乏人たちのせせら笑いを跳ね返し、本来の自分を取り戻すためのリングでもあります。
私が十数年前、読売新聞の子ども向け連載で猪木さんを取材した時、こんなメッセージをくれました。「大人の敷いたレールから１ミリでもはずれてみて欲しい。見たこともない視野が開けて、夢につながる」。
OUTBACK のスクール生たちは本日、世間が敷いた「精神障害者」というレールからはみ出します。その視野の先にどんな世界が広がるのか、会場の皆さんと一緒に体験したいと思っています。

佐藤光展／ OUTBACK アクターズスクール副校長

＜今後の予定＞
2023 年１月７日〜、お試し演劇ワークショップを予定。
2023 年春、OUTBACK アクターズスクール第３期開校
2023 年秋、OUTBACK 第３回公演開催
★詳細は、OUTBACK の HP、KP 神奈川精神医療人権センターの HP でお知らせします。

神奈川文化プログラム MAGCUL マグカル かながわ県民文化祭

ヨコハマ アートサイト

OUTBACK
http://outback-jp.com
outback.info.2021@gmail.com

助成：神奈川県マグカル展開促進補助金事業
横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト 2022